たけうまファンド

2022年3月31日基準

運用実績

1ヶ月	3ヶ月	6ヵ月	1年	年初来	設定来
5.9%	-2.3%	-3.5%	12.9%	-2.3%	1366.9%

※ 証券口座現在の資産残高基準。投資信託、iDeCo、仮想通貨、FX（外貨証拠金取引）は含まず。
※ 過去の実績データがない期間においては数字を未記載としています。

ポートフォリオ構成

実質株式保有比率		98.4%
	国内株式	55.0%
	海外株式	43.3%
現金（円・ドル）		1.6%

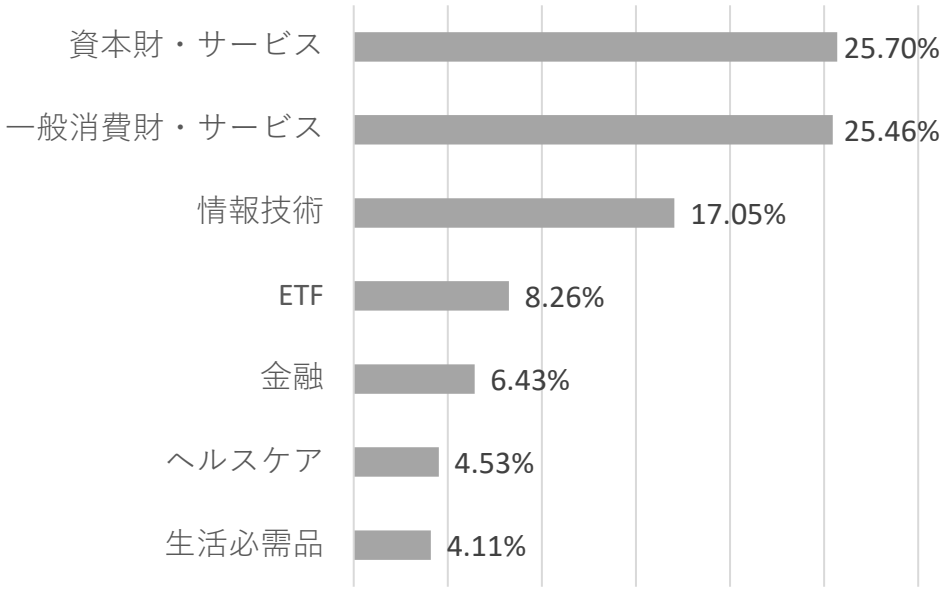
※比率は証券口座の現在の資産残価に対する割合

分配実績

設定来累計分配金　0円

※上記の分配金は過去の実績であり、将来の分配金の支払い及びその金額について保証するものではありません。
※成長ないので分配なし。

業種別組み入れ比率



※ 業種はGICS（世界産業分類基準）によるものです。
※ 優待株は含まず。

たけうまファンド

2022年3月31日基準

たけうまファンドの組み入れ銘柄の状況

組入上位10銘柄

	銘柄名	比率 業種	銘柄紹介
1	ウルトラファブリックスHD（4235）	16.83% 一般消費財	湿式合皮製造販売。従来からのSDGs加速にコロナ後の感染対策、テレワーク需要で成長一段階上へ。
2	ServiceNow, Inc.（NOW）	11.12% 情報技術	ITSM主力のSaaS。業務の自動化、DXは生産性向上に資するため人手不足・高インフレ下でも需要大。
3	シンメンテHD（6086）	7.53% 一般消費財	飲食店厨房メンテからコロナ禍経て他業種へも拡大。人手不足と感染対策とコスト削減を解決する。
4	ドラフト（5070）	7.39% 資本財	オフィスやSC、都市開発のデザイン。社長や優秀な人材が競争力。新しい生活様式での需要拡大期待。
5	MSCI Inc.（MSCI）	6.43% 金融	指数を開発販売。株価指数の提供だけにとどまらず、ESGやファクター含めマルチアセット市場狙う。
6	オカダアヨン（6294）	6.27% 資本財	解体用アタッチメント。建替え、電炉、バイオマスなどで市場拡大。今期が設備投資のピーク。
7	CrowdStrike Holdings, Inc.（CRWD）	5.93% 情報技術	クラウドからスタートしたエンドポイントセキュリティ企業。顧客のクロスセル進み高い営業効率。
8	Tapestry, Inc.（TPR）	5.75% 一般消費財	コーチやケイトスペード擁する婦人アパレル製造販売。経営危機から復活再生中。コロナ明けに期待。
9	エネルギー・セレクト・セクターSPDRファンド（XLE）	5.46% ETF	S&P500指数におけるエネルギー・セクターに連動する投資成果を追求するETF
10	Align Technology, Inc.（ALGN）	4.53% ヘルスケア	透明マウスピース型歯科矯正大手。口で表情を読み取る文化圏においてきれいな歯並びは重要。

※上記は組入銘柄の紹介を目的としてたけうまが作成しており、記載銘柄の推奨を行うものではありません。

たけうまファンド

2022年3月31日基準

ファンドおよびマーケットへのコメント

早いもので今年ももう4分の1が過ぎ去り、ロシアウクライナ戦争は収束の気配がないまま3月が終わってしまいました。マーケットと関係者というのはドライなもので、もう戦争そのものに対する興味は薄れ、動いた時の単なる理由付けと本命である金融政策とインフレに戦争による要素を加味しただけになってしまっているように思います。

ファンドの運用としては概ね月半ばまでにポジション構築を終えてしまい、それ以後はトレードをしていないため記憶が曖昧です。どう動かすかを考えている時のほうが当然よくマーケットの事を考えているし、よく覚えてるし、その分だけ長く感じますね。逆に月後半はほぼ何もしなかったのであっという間でした。

さて、先月持ち越した小麦ETFはすぐ利食ってしまい実は全然恩恵がありませんでした。天井まで持っていれば莫大な利益になったのですが自分が買った商品がピンポイントで一週間で過去最高の上昇率を記録するとは思いませんよね…。東証天下一武道会を避けるのは生存戦略として正しいので悔いはありませんが。その後は明豊ファシリティワークスと上村工業を売却してドラフトに入れ替え。商品価格が一旦のピークをつけた月半ばから後半にかけてXLEエネルギー・セレクト・セクターSPDRファンドと穀物ETFを買い付け。この2つのETFは本来は現金で持っておくべき分を現金で待機させておくのではなく積極的に活用してヘッジをするという意味合いで保有しています。

この意味合いの中でXLEを選択した理由としては、この戦争を経てESGの中ではEは後退したがGは強化された（ロシアの排除）、強欲＝経済よりも主義思想を第一に考える動きが強まった（経済合理性が第一ではない）、資源調達は経済から主義思想を取り入れたエネルギー安全保障問題に格上げされた、すでに中東から多く買っている国はその他の地域から調達を増やさざるを得ない、シェール開発は通常の油田開発よりも生産がはやい、米国のエネ全体をカバーしたいのであって個別リスクは回避したい・調べる労力を省きたい、といったところ。保有開始以後に追認するようなニュース・動きが相次いでいるので自信を持って継続する予定です。今回勉強になったのはまず思惑による需給で商品価格が動くときは商品そのものが効率よく、その後のトレンドを捉えるのは実際に業績に反映されるのを配当を受け取りながら待てる企業群なのだということ。

そう言いながらも穀物ETFを買っているのは食料価格上昇の方面で思うような投資手段が見つからなかったから。小麦は今後も主役級の扱いでずっと思惑が付きまといそうですが、大豆とコーンも組み入れられていれば単一商品の影響が薄まって穀物の動きを総合的に捉えられるだろうというのと、今のところ警戒されてない分今後大豆とコーンのほうがショックが来るのでは、という思惑もあっての選択です。

保有株でパフォーマンスを牽引したのは月後半好調が目立った米国株かと思いきや、月間を通して上がったのはほぼ日本株だけであとは円安による恩恵のみ。コストアップ直撃イメージが強いタペストリーが弱かったのはわかっていましたがその他の銘柄もマイナスばかりで情けなくなりました。株結局地合い、銘柄選択とは。

来月4月は日米ともに1-3月の決算がはじまり、日本株は特に3月期決算企業のガイダンスも出てきます。5月初頭のFOMCに向け0.5％利上げの地ならしもはじまりそうでまだまだボラティリティが高い展開が続きそうです。目先の上下に一喜一憂せず常に長期的な視点で純資産の安定的な成長を目指して運用してまいります。

※ 今後の見通しと運用方針は作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等により当該運用方針が変更される場合があります